



24 トレーニングはむずかしい……

2013. 8 執筆

このところ、日本ではキリンのハズバンドリートレーニングを始める所が徐々に増えてきています。ハズバンドリートレーニングとは簡単に言うと健康管理や治療などを動物たちが協力してくれるようにするためのトレーニングのことです。

これはキリンに限らずどの動物にも応用できるもので、ヒトの手で飼育されている動物園の動物たちにとっては十分な管理をしていくために必要だと思えます。

特に、大型動物でもあり、他の動物にはない特殊な体型をしているキリンは治療や検査、日常の管理など、簡単に保定したり麻酔をかけたりして行うことができません。そこで、普段からキリンたちに負担がかからず管理ができるように訓練しておくのです。いざ病気になって検査や治療をしようとしても何もできないのは本当に辛くて悔しいことですから……。

キヨミズは昔からよく体調を崩すキリンで、私はそんなキヨミズが元気がない時に「キヨミズはどこが悪いんだろう……どこか痛い所があるのだろうか。どうしてあげたら元気になるんだろう……」と思うだけで何も出来ない自分が歯がゆくてなりません。小さな動物なら捕まえて検査するのに、麻酔を掛けることが出来たらその間に検査や治療ができるのに……と。

後悔しないように、トレーニングをしよう！と、いうことで当園では2011年6月から本格的にターゲットトレーニングを開始しました。目標は蹄を整える削蹄(さくてい)をさせてもらえるようになること、採血を行うこと、体温を測ること、触診をさせるようにすることなどです。

まずは棒の先に目印をつけた「ターゲット」を使って、彼らを自由にコントロールするきっかけを作ります。まずは私たちの目の前に来る、そして前進、後退、横向き、静止など、ターゲットを使って誘導するのです。

ターゲットトレーニングを始めて2年がたちました。が、当園ではなかなか進みません。もう、すでにすいすいとキリンたちをコントロールしていろいろな事が出来るようになっている園もあります。そんな中、早くからトレーニングを導入していたにもかかわらず、なかなか進まないことに対して私は1年経ったころから焦りと苛立ちが募って

きました。いったいどうしたらいいのか、やり方が悪いのか、センスがないのか。トレーニングの基礎となる本を読むことはもちろんのこと、他園のキリン担当者と交流をもちトレーニングに関していろいろ聞いたり、見に行ったりもしました。

いろいろ悩んでいた頃、キリン担当者たちで話し合いをし、私は次の世代を担う人たちにトレーニングを任せることにしました。私は中途半端な形でキリンのトレーニングから退く形となりましたが、今度は一歩引いたところから彼らにアドバイス（口出し？）をさせてもらうことにしました。

それから月日が流れ、キリン担当も変わりました。ある日担当者4人で話し合いをしたときに自分の気持ちを伝えました。トレーニングがなかなか進まないことに頭を悩ませていることを話し、みんなの考えを必要としていることを伝えました。

その中で、私はみんなの意見の中からハッとしたのです。当園のキリンたちは日頃の接し方から、非常に扱いやすい性格に育っています。トレーニングをする以前から彼らにはいろいろな事が出来ました。

例えば、呼んだら来る、手からエサを食べる、知らない人からのエサも手から食べる、大勢の人が目の前に来ても動じない、大きな音や重機などに驚かない、体のいろいろな部分が触れる、しっぽを掴める、採尿ができる、体重計に乗せることができる、前足の蹄のケアができる、複数ある部屋やグラウンドの移動が4頭ともコントロールできる……それは当園のキリンにとって普通のことだったのです。

しかし、普段からこのような事ができることは私たちが密にキリンたちに接してきた成果であり、それ自体がトレーニングだったのです。

京都市動物園は狭いながらも楽しい施設。キリンと飼育員の距離が短く、私たちが作業の合間に彼らと接することは日常茶飯事なのです。工事などで近くを通るトラックや重機などもすぐ脇を通っていきます。そのため、キリンたちはヒトに慣れ、トラックや振動、物音にも自然に慣れてきたのです。

そのような状態の中から始めたトレーニングでした。必ずしも他の園がおこなっているトレーニングと同じやり方でなくてもいいのです。大事なのは「キリンたちを守る」ことなのです。事故の多いキリン、体型の特殊なキリン、一般に神経質だと言われているキリンをいかに守るかなのです。

それは1日ではできないことです。毎日のエサはもちろん、彼らの過ごす床の材質、日頃の接し方、私たちは室内の作業中でも外にいるキリンたちに目を配りますし、機会あるごとに接しています。新しいキリン舎もそのことを考えて作っています。健康な状態を維持すること、ケガをさせないことは毎日の積み重ねです。

彼らに対して適切なエサを与えている、面倒でも彼らがケガをしないような配慮を怠らない、そのような管理をしていることは自信を持って言えます。

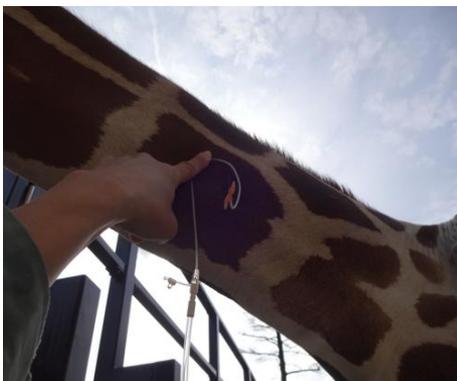
私はみんなと話をし、長い間ターゲットトレーニングに行き詰っていた重たい気持ちが一瞬で軽くなったのを感じました。

だからといってターゲットトレーニングをやめるわけではなく、問題が解決したわけではありませんが、滞っていたトレーニングに関して新たな道が開ける予感がしました。今までの状態を保ちつつトレーニングを重ね、強化していけばさらに可能性は広がります。

トレーニングの形は一つではないということ、個体の性格に合わせて行っていくことは当然ですが今まで自分たちのしてきたことがトレーニングに繋がっていることを認識し、そして何よりもそれらに同意してくれる仲間と一緒に仕事ができる喜びを忘れずに「キリンたちを守る」ためにこれからも頑張っていきたいと思います。



部屋を覗きに来る度に触れることを繰り返していると、いろいろなところが触れるようになるばかりでなく、普段の行動も落ち着きおおらかになる。



採血に使う道具を首に当てるトレーニング。



以前から行っていた体重測定もターゲットトレーニングのおかげでさらにスムーズに！